

●指導計画

◇主題名

責任ある行動 【1 - (3) 自由・自律】 関連価値 3 - (1) 生命尊重

◇ねらい

頂上に登るか、下山するか自由に決めることができる状況の中で、下山することを決めた主人公の思いを考えることを通して、自由には責任が伴うことに気づき、自律的な行動をとろうとする態度を養う。

◇教材名

「頂上はすぐそこに」 (文溪堂)

◇本時の展開

「児童がイメージしている自由は本当に自由と言えるのか」という疑問を投げかけ、課題意識をもたせる。

段階	学習活動	主な発問と児童の	留意点(見点)
導入	○自由についてのイメージを出し合い、課題意識をもつ。	○自由という言葉からどんな ・自分の好きなようにできる。 ・だれからも指図されない。 本当の自由とはどういうものか考えよう。	○自由について自分の考えを 出し合うことで道徳的価値への関心をもたせる。
展開	○資料の前半を読む。 ○危険が多いのに、私はなぜ単独登山を実行したのか考える。	○私はなぜ単独登山を決め、実行したのでしょうか。 ・一人だから自分の力が出し切れるから。 ・絶対成功してみせる自信があったから。 ・いっしょにいる人のために自分のやりたいことをあきらめたくない。	○美しい山の写真を提示し、山に憧れる気持ちの理解を促す。 ○自由に行動したいから単独登山を選んだ気持ちに共感させる。
	○動けないで待機しているときの私の気持ちを考える。	○頂上の手前で霧のため動けないでいた私はどんなことを考えたでしょう。 ・早く晴れて欲しい。登頂したい。 ・無理をすると遭難する。我慢だ。 ・予定の1週間を過ぎると捜索隊が出る。心配しているだろう。 ・まだ体力もある。大丈夫だ。	○どうしても単独登山した 「考える場」 自分の考えとそのわけをワークシートに書かせ、立場を明らかにさせる。
	○6日目、少し見えた頂上を前に、どうすべきかを考え、交	◎6日目の朝、登頂するべきか下山するべきか、それはなぜか意見を出し合いましょう。 ・登頂する。今まで待ったのだから。成功させて仲間知らせたい。無理をしても挑戦するために一人で来たのだから。 ・下山する。もしも何かあったら、みんな迷惑をかける。自分勝手に無茶な登頂はいけません。チャンスはまたある。	○自分の考えをワークシートに書き、ネームプレートで立場を示して議論する。 ○それぞれの意見にゆさぶ
	「議論する場」 自分の考えを発表し、意見交流をして話し合うことで、違った考えやよりよい考えに気づかせる。	・どちらにするか決めるのは自由だが、人に迷惑をかける方を選ぶのはいけない。 ・自分が選んだことがどんな結果になるか考えないといけない。 ○「もう二度下山しながら ・下山すると ・自分勝手な いけない。 ○本当の自由	○それぞれの意見にゆさぶ 全体での話し合いでは、 協働学習の場 として児童主体の議論になるよう教師はコーディネートする。 ★自由に伴う責任や自律に気づくことができる。
○資料の後半を読む。 ○「もう二度と振り返ることはなかった。」私の気持ちを考える。	○「もう二度下山しながら ・下山すると ・自分勝手な いけない。	○自分で納得して選んでいることに気づかせる。	
○本時のまとめをする。	○本当の自由 本当の自由とは、人に迷惑をかけないか考えて決めること。やりたいことも、まわりに迷惑がかかるようならしてはいけない。	○導入で考えた自由と比べさせることで、考えの深まりや考え方の変容を自覚させる。	
○自分の生活を振り返る。	○主人公のように結果や周りの状況を考えて、自分をコントロールできたことやできなかったことはありますか。 ・片付けが終わっていないのに、休憩になったままに遊んでしまった。 ・6年生の休憩時間がずれたとき、静かにできず遊びを選んだ。	○これまでの具体的な場面を取りあげて考えさせ 高まった価値で、自分の生活の中の課題に気づかせる。	
終末	○「私たちの道徳」P31を読み、本当の自由について考えたことを書く。	○「私たちの道徳」P31を読み、「自由だからこそ気をつけなければならないこと」を書きましょう。	